

# 東京都 大田区 NPO法人地域総合スポーツ倶楽部ピポットフット

予算額 14,924,050 円

## トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	4 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	3 団体	団体	団体	1 団体

トップアスリート総数	7 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	名	名	4 名	3 名

アシスタントコーチ総数	11 名
-------------	------

指導種目	サッカー、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、チアリーディング
------	--------------------------------------

### ◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ 受託団体と巡回団体、関係アスリートで毎月定例運営委員会を実施し、単に教室運営に終始せめよう、3カ年後の事業展開についての話し合いを繰り返し行い、常に「事業の目的」を意識共有しながら教室を展開した。
- ・ 地元ケーブルテレビによる媒体を活用し、教室実施エリアおよび周辺で本事業のPRを行った。
- ・ 本事業PRの際に、参画しているアスリートを活用(パネラー)した。
- ・ 運営委員会で、まちづくり専門家による講演会を実施し、違った視点から関係者の意識を高めた。

### ◆成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ 文部科学省委託事業というタイトル及びトップアスリート指導者の経歴により、地域の学校及び住民に対して「クラブの信用度、知名度」が向上したことで、教室だけでなくクラブ自体への参加者が増加し、クラブの組織基盤の強化につながった。
- ・ アスリート派遣により、地域になかった新たな種目教室を立ち上げることが出来、特に子どもたちがスポーツに親しむことを後押しした。
- ・ トップアスリートの指導により参加者の真剣度が増した。また、それによって保護者間で本プロジェクトが話題となり、クラブへの興味・関心が高まった。
- ・ 地元指導者であるアシスタントコーチの指導スキルアップに効果があった。
- ・ 直接指導を受けた教室参加者の技術、モチベーションの向上に大きな効果があった。
- ・ 本事業の実施により「トップアスリート」を指導者、またはクラブ協働者として、地域でどう活かしていくか等、新たなテーマについての検討が始まった。

#### 〔課題〕

- ・ 継続的にトップアスリートが指導できるよう、クラブの基盤強化を更に実現するには、教室の付加価値を高め参加費収入の増加を図ると同時に、教室と連動し地域に貢献する事業を展開できるようなマネジメント能力の高い人材の育成が必要である。
- ・ 継続に向けて、トップアスリートが、教室参加者だけでなく保護者、学校関係者など、まずは周囲の関係者などとコミュニケーションが図れるような機会をつくることも必要である。
- ・ 地域で実施する事業は、特に成果が出るのに時間が必要だが、複数年計画で事業の組み立てが出来ないことは大きな課題である。(単年度公募事業であるということ)

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	「地域スポーツ講座」				
	趣旨・目的	高い競技力をもつ人材であるトップアスリートが、地域でスムーズ(有効かつ安全)に巡回指導を実施するために、主にフィジカルな面について、ベースを学んでもらい、指導スキルアップを目指す。かつ、地域のスポーツ指導者、住民、などとの交流も行い「地域に根ざす」きっかけとする。				
	内容	【パネルディスカッション、講演会形式】 (1)本事業の趣旨説明 (2)「地域とは？」～指導環境の把握と理解～ (3)地域スポーツにおける指導(アスリートによるパネルディスカッション) (4)安全管理 (5)情報交換会				
	対象者	参加アスリート、アシスタントコーチ、クラブ指導者、地域住民など	参加人数/回	①10名 ②36名 ③20名 ④33名	実施回数	4回
	効果をも高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室実施エリアで開催することで、保護者とアスリートとの距離を縮めるチラシの表面は本事業、裏面は近隣の教室事業の内容を掲載し、相互の関連をPR。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>トップアスリートが単に指導するだけではなく、本事業の趣旨を理解し「地域クラブの一員として」の参画意識を高めることができた。</li> <li>本事業関係者(運営委員)、スポーツ指導者、住民が「情報を共有し、学ぶ場」として相互の理解を深めることが出来た。</li> <li>「トップアスリート」や「種目」への認識が深まり、地域で本事業を実施するにあたっての課題が明確になったことで、次年度以降の目的及び事業展開の計画がたてやすくなった。</li> </ul>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>アスリートへの啓発活動(講座)の実施や相互の情報交換は非常に有効だが、それぞれの活動時間が異なるため、集合しての講習が困難。</li> </ul>					

2	取組の名称	「大田区スポーツGOMI拾い大会」				
	趣旨・目的	大勢が集い多世代で交流できる「スポーツ」は、「地域の絆」づくりに有効であると考え、通常の「競技種目」では参加者が限定され、地域ぐるみの活動にはなりにくい。ため、「スポーツ」と「エコ(環境保全活動)」を融合した「スポーツGOMI拾い大会」を、スポーツを通じた「まちづくり」のきっかけ事業として展開する。				
	内容	【スポーツGOMI拾い大会の企画・運営】大田区の子ども、企業、地元商店街、本事業アスリートが参加して「大会」を開催・運営・参加する。				
	対象者	事業参加アスリート、アシスタントコーチ、クラブ指導者、地域住民、地域企業、地域商工会、行政など	参加人数/回	400名	実施回数	1回
	効果をも高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業に参加しているアスリートを加え、相互の関連をPRアスリートなどの参加で、クラブの信頼制のアップを図る。</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>大田区行政、近隣企業も参画し、まちぐるみの事業として実施することが出来た。</li> <li>本事業の一環として、「スポーツで地域の絆づくり」実現をPRすることが出来た。</li> <li>スポーツ関係者がユニフォーム、企業参加者が制服を着用して参加したことで、「スポーツ」×「企業」×「環境」が、目で見てわかる事業であり一般に共感された。</li> </ul>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業のアスリート派遣、小学校派遣への住民の認知度向上に直接的につながるPRをどのようにするか、更に検討する必要がある。</li> </ul>					

## 小学校体育活動支援

派遣先学校総数	2 校
---------	-----

コーディネーター総数	5 名
------------	-----

### ◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ 実際に、どのような成果がでるのかを、「べた勤務」「スポット勤務」の2種類の派遣によって検証している。
- ・ 定期的に校長や教職員、保護者から話をきいた。
- ・ 現状、やりながら試行錯誤でノウハウを蓄積中。

### ◆成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ 本事業の打合せをする中で「学校」と「地域スポーツクラブ」との具体的な事業を通じた信頼関係が実現した。
- ・ 地域スポーツクラブの存在をPRすることができた。
- ・ 学校(体育)の実態を把握することができた。

#### 〔課題〕

- ・ 学校側との打合せ時間の確保が困難(管理職とは可能だが、担任教員とのコンタクトが難しい)
- ・ 定期派遣の場合、どこまでの責任をおうのかが当初不明瞭であった(半年かけてコミュニケーションをはかりながら現場で調整したが、担任教員によって対応は異なる。)

## 本事業全体の成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ アスリート派遣と小学校体育活動コーディネーター派遣という2本の柱事業により、「地域」「トップアスリート(指導者)」「学校」という3者を運動させ、それぞれにとってより効果がでる形を模索するきっかけとなったことが非常に大きな成果であった。
- ・ 運営委員会で関わる地域クラブが、上記について意識を深める、それぞれの地域の特色を活かし、実際に「事業としての展開を考える」契機となった。
- ・ 本事業を、委託終了後にも継続するためには「クラブの組織基盤強化」が必要であり、それをこの事業を活用して、どのように実現するかを運営委員会で「具体的」に関与することが可能となった。

#### 〔課題〕

- ・ 本来、上記について2ヶ年程度の計画で実現を図りたいところだが、それができないことが難しい。
- ・ 23年度半年の事業では試行錯誤の感が多く、24年度は深めていきたい。